

半場 久也



(カットも筆者)

◎ジャネット・

ターバー宛て

(原文英語)

ニューヨーク

一八九四年四月五日

『尊敬に値するターバー夫人様！』

私はこれまでお待ちしておりました。けれど、これ以上お待ちすることができないと、あなたにお知らせすべき状況から逃れられない自分に苦しんでいます。(原注・ジャネット・ターバーとのドヴォルジャークの手紙は、ニューヨーク滞る二年間には主に経済的な問題に關してだった。この施設の経営に多額の金を使つて参加していたJ・ターバーは、一八九三年大きな経済的損失をし、そのため決められた期限に、ドヴォルジャークへの礼金を支払らえる様な状態ではなかった。

更に作曲家が契約によつて一八九三年九月二十三日に受け取るべき下半年の報酬(七千五百ドル)を彼に支払わなかった。ドヴォルジャークは一通の手形を貰つたが、これは支払い不能であった。作曲家は約半年間J・ターバーの経済問題と現金の受け取りを我慢して待つていた。この手紙は借金の即時支払いに向かつて

のドヴォルジャークの最初の断固とした要求であつた。

私はアメリカ国民をととても愛しています。そして私の大きな希望や芸術を合衆国に提供するはずでした。けれども生活の必要性は、芸術と一緒になつて行きます。たとえ私が個人的なことに無關心でいられても、私の家内や子供達を苦境に置くのを黙つて見ている訳にはゆきません。

もしも私の収入を契約通りに得られない状況ならば、管財課にこの件を公表しますし、もし直ちにそれに注意が向けられないならば、私の状況を公開します。

この問題を直ちに受け入れていただくようお願いするのは、大変残念でたまりません。と言うのは、私はこれ以上待たされることが不可能だからです。延期することは、私が秘密にしておきたい事情を公開する方に、私を無

理にもつてゆくことになるでしょう。

ごきげんよう。

コメント 〈原文の注釈にある通り、

ドヴォルジャークは、この手紙を書いた半年間、即ち院長就任一カ年以後は、報酬を一文も受け取っていないことになる。この手紙が原注にある通り、催促の初めてのものであれば、彼はそれまで半年間じつと堪えて

いたのだろう。しかしこの後も払ってもらえなかつたらしいが、不思議なことに、

の内藤著によると、この年の四月に、「契約を更に二年延長した」となっているが、そうすると、最初の約束は二年が正しくなる。

それにしても、この状態でドヴォルジャークがよく再契約にサインしたものである。サーバー夫人が、この手紙を読んで、取り敢えずなにかしかのお金を彼に渡したのであるか？ この

手紙を読むと、息苦しくなる。〉

◎ヨハンナ・アンナ・ストラコヴァ及びヴァーツラフ・シトラカ宛て

（原注・ヨハンナ 1851〜1938

はドヴォルジャークの実の妹、時計職人ヴァーツラフと結婚し、八人の子持ち。ヴェルヴァリの彼女の所帯に、ドヴォルジャークの父フランティシエックが、その晩年四年間過ごしていた。ドヴォルジ

未払いの報酬に忍耐の限界

ヤークは妹に経済的援助をしていた。

ニューヨーク、一八九四年四月十四日

愛する妹と義理の弟へ！

我々の愛する父親が亡くなった晩は、とても悲しくて、私等は全員熱い涙を流しました。（原注・作曲家の父フランティ

シエックはヴェルヴァリで八十歳の時、

一八九四年二月二十八日に亡くなった。

もつとも私はこの知らせを神のお恵みで冷静に受けとめました。

その後、父のことを思わない日はありません。こちらへ来る前に、もう一度彼に会っておけばよかったというこ

とだけ思っています！ 残念です。もう終わったことです！ 神様、彼に永久の喜びを与えてください！

月が変わって五月には私共はブラーハへ行き、君等と会うのです。私共は君が父親にしてくれたこと全てに感謝しています！ お願いだから、私のために、お父さんとお母さんの思い出となるような、ささやかなものを保っておいてください。特に古い時計やチェストやマリア像、これは私の子供の頃を思い出します。それからツイター、これも欲しいですよ。どうか全部取って置いてください。

（原注・ドヴォルジャークの言っているツイターは、彼が未だ子供の頃、父親がネラホセヴェスやツロニツェで借りしていた宿屋の主人として、この



ドヴォルジャークの故郷ウイソカー村の入口

楽器を弾いていたもの)

今、朝の七時です。私共は全員父親の死のミサを行うために教会へ急いで行くのです。それはチェコの教会で、チェコ式のミサとして、行われるのです。それに従って子供達は彼らの好きなおじいちゃんを祈ることが出来るのです。

五月十九日に私共はニューヨークを出発し、五月二十八日から二十九日の午後二時半にクラルピーに着くでしょう。そこでうまく行けば、君等に会うのです。

では、ごきげんよう！

ヴェルヴァリに行ったら、私は個人的にフラホル音楽協会のデカン氏とヴァーツラフ・ヤンダ氏に、ご挨拶をするつもりです。

コメント (ニューヨーク市民の彼

に対する引き留め策かもしれないが、この年の四月十八日ニューヨーク・フィルハーモニー楽団の名譽会員に推薦された。ドヴォルジャークが故郷を後に出発する寸前に出した父親宛ての手紙(前出)によると、「父のいるヴェルヴァリへ行く暇が無いので、プラーハまで出てきてくれ」となっている。

そこで最後のお別れをしようと思は考えたが、多分父親は会いに来なかったようである。というのは、この手紙で「……こちらへ来る前にもう一度会っておけばよかった……」と、後悔した様に書いてあるからである。」

◇冬季号の原稿募集

締め切り

12月24日

お正月らしい原稿をお寄せください。医家随想、各分野にわたつての評論、詩歌、映画・演劇・書評などをどうぞ。

◎医芸俳壇・歌壇・柳壇の締め切りは1月7日

◇投稿規定

会員ならどなたでも投稿する事が出来ます。

ただし2頁までは無料ですが、写真やカットなどを含めて2頁を超えますと、1頁あたり2500円の割合で負担金をいただきます。また10%割引で本誌を購入できます。